CASBEE 名古屋 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建物(新築)(2016年版、名古屋市建築物環境配慮指針マニュアル2016) |使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)西区那古野一丁目PJ 新築工事	階数	地上15F
建設地	愛知県名古屋市西区那古野一丁目402番、403番、410番2、411番、412番	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	144 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2022年10月20日
敷地面積	690 ㎡	作成者	
建築面積	388 ㎡	確認日	2022年10月20日
延床面積	4,759 ㎡	確認者	

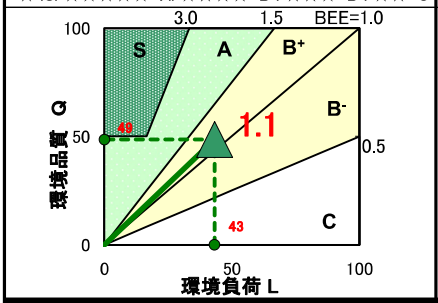
1-2 外観

ください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE 1.1

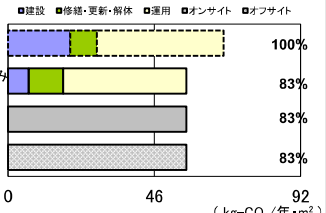
★:S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

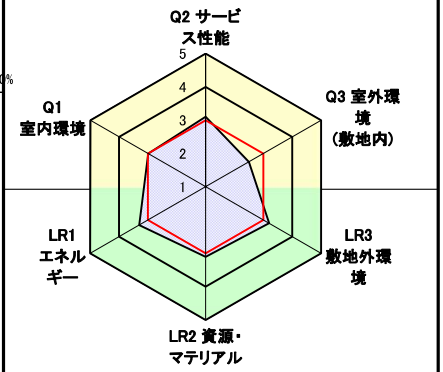
☆:☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:

標準計算



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

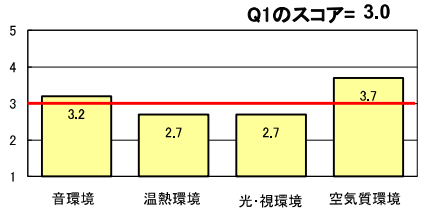
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



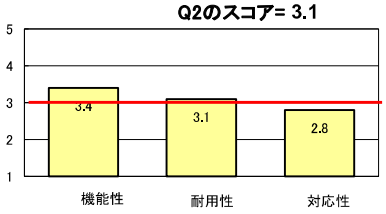
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　Q のスコア= 2.9

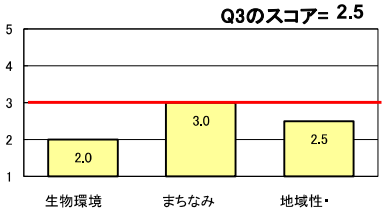
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.1

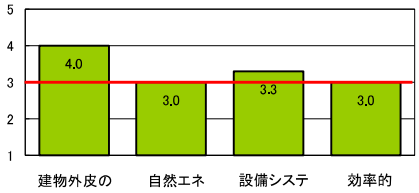


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.5

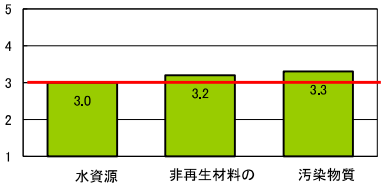


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.2

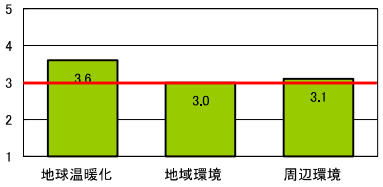
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.3



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.1



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.2



3 設計上の配慮事項

総合

良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。また、高い外皮性能を計画し省エネルギーで快適な室内環境を整えれるよう努めた。

その他

Q1 室内環境

外皮性能として、住居部分日本住宅性能表示5-1断熱など性能等級等級4を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えれるよう努めた。また、Ｆ☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮している。

Q2 サービス性能

耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長くするように努めた。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内には適切に緑化を施すことで地表面温度上昇を極力抑える計画とした。

LR1 エネルギー

適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努め、潜熱回収型給湯器、ＬＥＤ照明設備を採用することで省エネルギーに配慮している。

LR2 資源・マテリアル

有害物質を含まない材料を使用するよう努めた。

LR3 敷地外環境

ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE名古屋　評価結果

重点項目スコア・結果シート

(仮称)西区那古野一丁目PJ　新築工事

■使用評価マニュアル：　CASBEE−建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト：　CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目			評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策					**3.4**
LR1	エネルギー		3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮		3.6	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.05	
2. 自然共生					**2.3**
Q3.1	生物環境の保全と創出		2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮				
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.045	
3. 循環型社会					**3.1**
LR2.1	水資源保護		3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減		3.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制　※2		3.0	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策　評価点　＝ 3.4

2. 自然共生　評価点　＝ 2.3

3. 循環型社会　評価点　＝ 3.1

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$重点項目スコア＝\frac{(評価点×全体に対する重み)の総和}{全体に対する重みの総和}$$

※1　ここでは、Q3．3．1の評価する取組みのうち評価項目　Ⅰ　2)地域性のある材料の使用　又は、Q3．2において評価する取組みのうち評価項目　4)地域性のある素材による良好な景観形成　のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3．3．1の全体に対する重みに0．2を乗じたものとしている。

※2　ここでは、LR3．2．3のうち、LR3．2．3．3　交通負荷抑制　を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3．2．3の評価点とは異なるものである。